

アルミ輸入は地金、スクラップとも二桁減

アルミスクラップも需給は緩いか



橋本健一郎氏

橋本金属
・アルミ 橋本健一郎氏リポート②

一月前半は、ドル安・上海株の反発、原油の続伸三ドル台やNYダウの反発、二〇一五年通年の独GDPが前年比一・七%増加で四年ぶりの高い伸びだった事などのプラス材料もあつたが、十二月の中国製造業PMIは四八・二に低下、景気縮小拡大の分岐点とされる五〇を一〇か月連続で下回ったこと。十二月の中国サービス部門PMIは五〇・二に低下、二〇一四年七月以来の低水準となったことなどを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、一月十五日時点一四八九・五ドル(現物後場買い)と月初価格から一七ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、一月の中国政府発表の月のPMIは四九・四に低下、予想の四九・六を下回った事、一月の米ISM製造業景況指数は四八・二に低下、予想の四八・四を下回ったこと、ECBの金融緩和が日銀ほど積極的ではないとの観測などのマイナス材料もあつたが、日銀がマイナスイ金利を導入した事、先日発表の十一月の中国GDPが六・九%増と七%を割り込んだもののそれに伴う景気対策期待、NYダウも一六、〇〇〇ドル台を回復しことからLMEアルミ相場はUP、二月一日現在LME(現物後場)一、四三九ドルと後半スタート価格から一四ドルDOWNしてのスタートとなった。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一一・二五→一二・二〇七(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比二・三%減の七六万七、〇五二台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・二%増の二二万七、六六一台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比一・三%減の七万五、四五二戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比四八・六%減の九〇t、二次合金が二八・九%増の一、六一五t、前月比でスクラップが一・二%増の七、九三五t、アルミ缶が六・二%増の四、二六四t。

※一五年一月からスクラップがスクラップとア

ルミ缶に仕分けされたため、前年比との比較ができず前月比との比較。

輸入

輸入は新地金が前年比一四・二%減の一〇万三、一五一t、二次合金が一三・二%減の八万七、四三二t、スクラップが四六%減の七五〇t、合金スクラップは四四・九%減の三、六〇八t。

■前月の国内指標

日本アルミウム協会発表の庄延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・二%減の一六万〇、四五四t。

日本アルミウム合金協会発表のアルミウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比六・一%減の六万二、一五七tであった。

■概況

【自動車生産】

十二月の四輪車生産台数は七四万九、六九三台で、前年同月の七六万七、〇五二台に比べて一万七、三五九台(二・三%)の減少となり、二カ月ぶりに前年同月を下回った。

十二月の国内需要は三六万九、四六〇台で、前年同月比一四・五%の減少であった。このうち、乗用車三〇万七、八五九台で前年同月比一四・六%の減少、トラック六万〇、四八五台で同一四・五%の減少、バス一、一六台で同三四・六%の増加。

輸出は前年同月比八・一%の増加。(実績)

【自動車販売】

一月の国内自動車販売台数(軽除く)は二万三、七、六六一台で前年比〇・二%増。三カ月連続プラス。このうち、乗用車一・三%増、貨物八・七%減、バス三・二%増。

【住宅着工数】

・平成二十七年十二月の住宅着工戸数は七万五、四五二戸で、前年同月比で一・三%減となった。また、季節調整済年率換算値では八六・〇万戸(前月比二・二%減)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で貸家が增、持家、分譲住宅が減となった。季節調整済値についても、前月比で貸家が增、持家、分譲住宅が減となった。

・住宅着工の動向については、全体として平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなっている。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

(四面より続く)

【アルミ・ワム二次合金・同合金地金等生産実績】
前年比六・一％減の六万二、一五七tと一五
カ月連続マイナス。出荷は六％減の六万四、〇
五八tと二三カ月連続マイナス。このうち、出荷
先は鋳物六％減、ダイカスト六％減、板三・四
％減、押出一四・六％減、鉄鋼一九・七％減、
合金地金メーカー〇・六％増。

【アルミ圧延・押出品生産数】

○・二％減、再びマイナスに転じた。一六万
〇、四五四t。

【輸出】

アルミ新地金が前年比四八・六％減の九〇
t、二次合金が二八・九％増の一、六一五t、
スクラップが一・二％増の七、九三五t、ア
ルミ缶が前月比六・二％増の四、二六四t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比一四・二％減の一〇
万三、一五一t、二次合金が一三・二％減の
八万七、四三一t、スクラップが四六％減の七
五〇t、合金スクラップが四四・九％減の三、
六〇八t。

【見通し】

・自動車は生産が二カ月ぶり減少の二・三％
減。一月の国内販売台数が前年比〇・二％増。
生産が二カ月振りマイナス、販売が四カ月連
続プラス。生産が再び減少となった。販売の方
が微増ではあるが四カ月連続プラスに。ただ増
加の幅が縮小しており注視が必要。

・住宅着工の動向については、全体として平
成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け
込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いて
きたものの、足下では横ばいの動きとなってい
る。引き続き、今後の動向をしかりと注視して
いく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数 主力の押出が
減少。板類、輸出共にプラスに転じ減容幅は縮
小した。

・アルミ・ワム二次合金 同合金地金等生
産実績 自動車生産の減少を受けて減少、さ
らに 鉄鋼系への出荷も大幅に減少。自動車販
売増だけが唯一の期待。

・輸出 内需の低迷を受けて増加。

・輸入 内需の低迷や円高から減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、住宅着工や自動車生産の減
少に伴う発生難はあるものの、格安の中国
塊の輸入品もあり今月内は需給は緩いので
はないか。

【価格・為替予想】

今月は、春節明けの中国動向と原油の生産

調整問題に左右される。

春節明けの中国の動向に関しては、上海株
がデッドラインと言われた三、五〇〇を大きく
下回る二、七〇〇付近で推移しているにも関わ
らず、有効な対策を未だ打ててないのが現状。
新たな対策が出る可能もとばしく良くて現状
維持ではないか？

原油減産問題に関しては、採算ラインと
言われる四〇ドルを大きく下回る三〇ドル
近辺で推移しており、OPEC、非OPEC
のロシアなどとの減産合意が取り下げられ
るも、サウジとイランの国交断絶が修復す
る見込みもなく、今月中の減産合意はない
のではないかと？

それらを踏まえた二月のアルミ価格は、
中国が新たな株価対策などを行い、原油の
減産合意が行われた場合、一月高値の一段
高一、五五〇ドルを予測。いずれの場合
は一、四五〇ドル。下値はいずれの条件も
達成できなかった場合、一月もう一段安値
の一、四〇〇ドル。

為替は、ECBも追加金融緩和に関しては
日本ほど積極的でない事。人民元流出に関し
ては案の対策もないことが考えられる。

それらを踏まえ予測は、上値はECBが追
加金融緩和をした場合、新興国からの資金吸
い上げに伴うユーロでの円高や人民元の流出
加速からの一七円台を予測。下値は金融緩
和を行わず、人民元流出対策を行った場合一
二円台。

メーカースクラップ購入価格は五円安く一
〇円安と予測している

L M E 非鉄在庫 (2月3日発表分)

	入庫	出庫	2月2日 現在	増	減
銅	2,325	5,950	235,400	—	3,625
G A W	0	0	0	±	0
G A C	2,325	5,950	235,400	—	3,625
す ず	0	45	5,380	—	45
鉛	0	1,000	186,075	—	1,000
亜鉛	0	1,575	468,100	—	1,575
アルミ	0	5,700	2,784,975	—	5,700
二次合金	0	0	15,400	±	0
ニッケル	1,836	2,376	443,586	—	540
アルミ二次(NASAA)	0	40	47,560	—	40

(単位: トン)